

第2章

実践プランの進捗状況と地域の課題

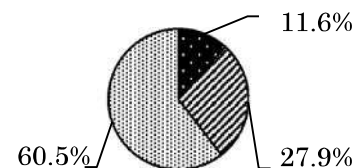
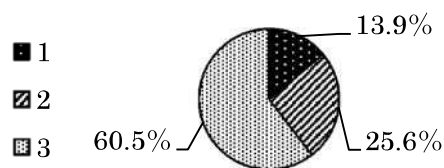
第1節 実践プランの進捗状況

○ 実践プランの進捗状況については、平成29年2月に実施された「実践プラン実施に関する聴き取り調査」の結果を平成24年度に実施された調査の結果と比較することで、その進捗について評価します。

1. 住民協議会が福祉活動に取り組んで行く上での課題

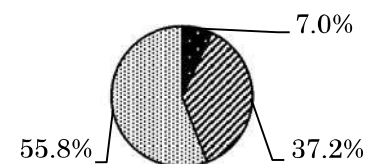
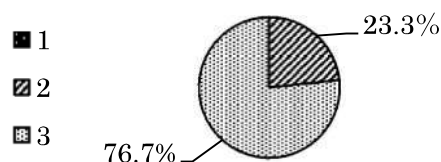
○ 役員（活動の担い手）が高齢化している

回答番号		H24 年度		H28 年度	
		回答数	比率（％）	回答数	比率（％）
1	当てはまらない	6	13.9	5	11.6
2	どちらともいえない	11	25.6	12	27.9
3	当てはまる	26	60.5	26	60.5
計		43	100	43	100



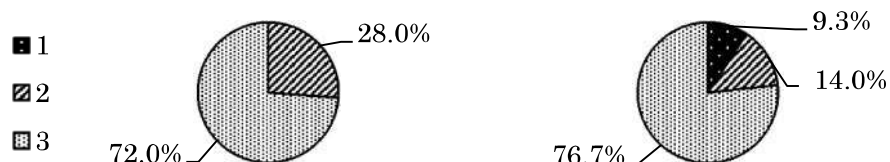
○ 役員（活動の担い手）の負担感が大きい

回答番号		H24 年度		H28 年度	
		回答数	比率（％）	回答数	比率（％）
1	当てはまらない	0	0.0	3	7.0
2	どちらともいえない	10	23.3	16	37.2
3	当てはまる	33	76.7	24	55.8
計		43	100	43	100



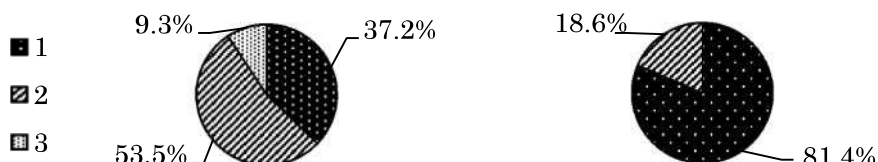
◎ 役員（活動の担い手）を発掘するのが難しい

回答番号		H24 年度		H28 年度	
		回答数	比率（％）	回答数	比率（％）
1	当てはまらない	0	0.0	4	9.3
2	どちらともいえない	12	28.0	6	14.0
3	当てはまる	31	72.0	33	76.7
計		43	100	43	100



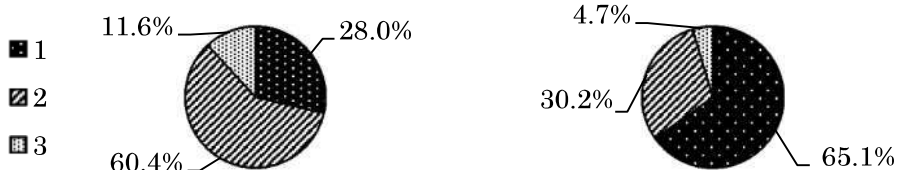
◎ （福祉活動のための）活動場所が確保できない

回答番号		H24 年度		H28 年度	
		回答数	比率（％）	回答数	比率（％）
1	当てはまらない	16	37.2	35	81.4
2	どちらともいえない	23	53.5	8	18.6
3	当てはまる	4	9.3	0	0.0
計		43	100	43	100



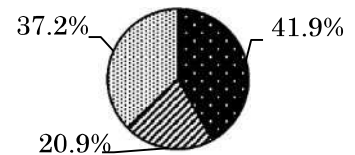
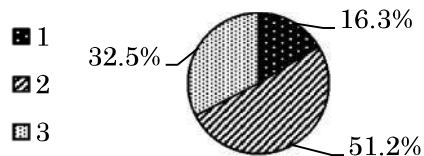
◎ 福祉活動の優先順位が低い（他に優先すべき課題が多い）

回答番号		H24 年度		H28 年度	
		回答数	比率（％）	回答数	比率（％）
1	当てはまらない	12	28.0	28	65.1
2	どちらともいえない	26	60.4	13	30.2
3	当てはまる	5	11.6	2	4.7
計		43	100	43	100



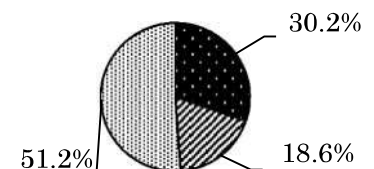
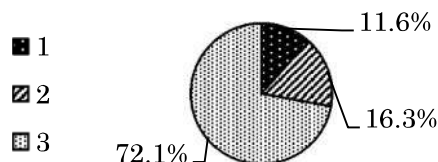
◎ 困っている人を把握するのが難しい

回答番号		H24 年度		H28 年度	
		回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)
1	当てはまらない	7	16.3	18	41.9
2	どちらともいえない	22	51.2	9	20.9
3	当てはまる	14	32.5	16	37.2
計		43	100	43	100



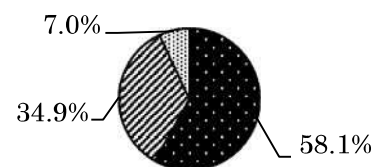
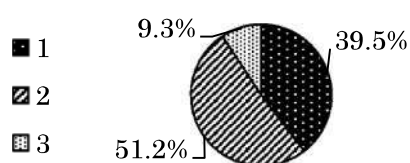
◎ 個人情報の取り扱いが難しい

回答番号		H24 年度		H28 年度	
		回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)
1	当てはまらない	5	11.6	13	30.2
2	どちらともいえない	7	16.3	8	18.6
3	当てはまる	31	72.1	22	51.2
計		43	100	43	100



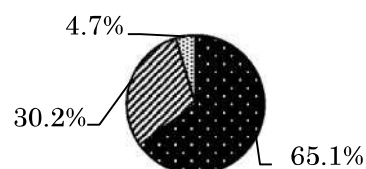
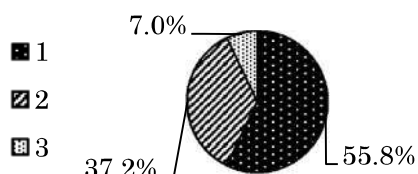
◎ 地域でどのような福祉課題があるかわからない

回答番号		H24 年度		H28 年度	
		回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)
1	当てはまらない	17	39.5	25	58.1
2	どちらともいえない	22	51.2	15	34.9
3	当てはまる	4	9.3	3	7.0
計		43	100	43	100



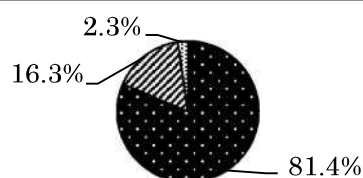
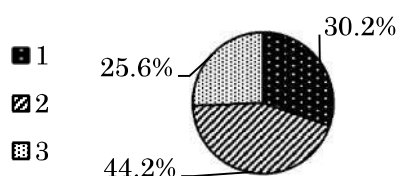
㊦ どのような活動をしてよいかわからない

回答番号		H24 年度		H28 年度	
		回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)
1	当てはまらない	24	55.8	28	65.1
2	どちらともいえない	16	37.2	13	30.2
3	当てはまる	3	7.0	2	4.7
計		43	100	43	100



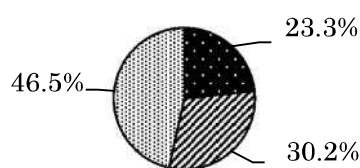
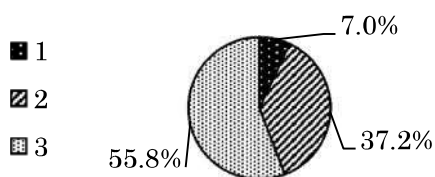
㊦ 福祉活動について役員間で理解を得るのが難しい

回答番号		H24 年度		H28 年度	
		回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)
1	当てはまらない	13	30.2	35	81.4
2	どちらともいえない	19	44.2	7	16.3
3	当てはまる	11	25.6	1	2.3
計		43	100	43	100



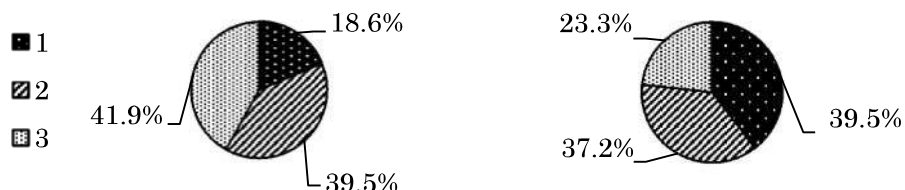
㊦ 財源が不足している

回答番号		H24 年度		H28 年度	
		回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)
1	当てはまらない	3	7.0	10	23.3
2	どちらともいえない	16	37.2	13	30.2
3	当てはまる	24	55.8	20	46.5
計		43	100	43	100



②（福祉活動を進めるための）専門的な知識が不足している

回答番号		H24 年度		H28 年度	
		回答数	比率（％）	回答数	比率（％）
1	当てはまらない	8	18.6	17	39.5
2	どちらともいえない	17	39.5	16	37.2
3	当てはまる	18	41.9	10	23.3
計		43	100	43	100



2. 課題の考察

- 平成 24 年度の調査との比較から、課題としてゆるやかに改善している項目は、「役員（活動の担い手）の負担感が大きい」（「当てはまる」が 76.7％から 55.8％）、「（福祉活動のための）活動場所が確保できない」（「当てはまる」が 9.3％から 0.0％）、「福祉活動の優先順位が低い（他に優先すべき課題が多い）」（「当てはまる」が 11.6％から 4.7％）、「個人情報の取り扱いが難しい」（「当てはまる」が 72.1％から 51.2％）、「地域でどのような福祉課題があるかわからない」（「当てはまる」「どちらともいえない」の合計が 60.5％から 41.9％）「どのような活動をしてよいかわからない」（「当てはまる」「どちらともいえない」の合計が 44.2％から 34.9％）、「福祉活動について役員間で理解を得るのが難しい」（「当てはまる」が 25.6％から 2.3％）、「（福祉活動を進めるための）専門的な知識が不足している」（「当てはまる」が 41.9％から 23.3％）となっています。
- 以上のことから、住民協議会の中での福祉活動への理解が広がり、住民協議会として取り組むべき地域課題が身近な福祉課題として認知されていることがわかります。同時に、地域にある福祉課題への理解も次第に進み、そのための活動場所などの確保も進んでいるといえます。
- もちろん、改善しているとはいえ、役員や活動者の負担感は依然として高く、個人情報の取り扱いや専門職との連携が必要なことも伺えます。住民協議会が地域福祉の担い手として安心して活動に取り組めるように、地域連携活動サポートチームの活動を一層強化し、その支援に当たっていくことが重要です。

- さらに、平成 24 年度の調査と比べ、改善が見られない項目としては、「役員（活動の担い手）が高齢化している」、「役員（活動の担い手）を発掘するのが難しい」という住民協議会の担い手の問題、「困っている人を把握するのが難しい」という個別の福祉課題の発見が挙げられています。
- 担い手の問題は、今後ますます少子高齢化が進行する本市においても、地域福祉活動だけにとどまらず、住民協議会全体の課題といえます。特効薬はないとしても、地域の中の多様な人々の参加を促し、社会資源を発掘する努力と、そのための支援が必要です。また、個別の福祉課題の把握には、地域での個人情報の把握についてのルール作りや、専門職との連携が必要になります。